様式２

令和6年度　調布市立八雲台学校　学校評価報告書（学校長　上田　義孝）

学校の教育目標		
◎思いやりのある子ども （心の教育の充実）	○よく考える子ども （‘確かな学力’の定着を図る授業の充実）	○健康な子ども （体力・健康増進の充実）
目指す学校像（ビジョン）　例）学校像，教員像，児童・生徒像		
「一人一人の子どもが安心して通うことができる学校」		

調布市立学校における共通した領域　＜短期的な経営目標＞

	1　豊かな心（徳）		2　確かな学力（知）		3　健やかな体（体）	
自己評価	(1)　具体的な取組	評価	(1)　具体的な取組	評価	(1)　具体的な取組	評価
	①主体的に考え，議論する道徳の授業を実践し，規範意識を育成する。	A	①　全学年で交換授業を行い，分かりやすい学びを提供する。	A	①　運動量を確保した体育科授業の実践を積み重ねる。	A
	②挨拶・言葉遣い等の基本的な生活習慣を各教科の授業や，家庭・地域と連携して定着させる。	A	②モバイル端末を効果的に活用し，協働的な学びの授業を行う。	A	②運動を日常化し，体を動かす意欲向上のため，休み時間に児童が外遊びをできるようにする。	A
	(2)　成果（数値目標に対して）	評価	(2)　成果（数値目標に対して）	評価	(2)　成果（数値目標に対して）	評価
	①　道徳の時間等，心の教育の充実に努めていると肯定的な回答８０%を目指す。	A	①　児童が主体的に取り組む学び合いや，観察・体験の授業を１/３の授業で行う。	B	①運動量を確保した授業を行い，授業の２/３は運動できるようにする。	A
	②　基本的な生活習慣が身に付くように家庭と学校で指導するという回答 90%を目指す。	B	②全教員が１日１回以上，ＩＣＴ機器または児童用タブレットを活用した授業を行う。	A	②１日１回は全校児童が，体育の授業または外遊びができるようにする。	B
学校関係者評価	安心して生活できる環境としての学校が整えられている。その中で，規律を自主的に守ろうとしている児童の姿勢が垣間見られて素晴らしかった。 いつ学校に来ても気持ちの良い挨拶が返ってくる。		少人数クラスでの学びへの肯定的自己評価ができるようになる指導の工夫や言葉かけ，支援等，効果的な取組がなされている。 ＩＣＴ機器がツールとして効果的にかつ，適正に使われていた。導入されて５年経ち，当たり前のツールとして定着している。		日常的に体を動かす取組ができているため，健康的な生活を送れている様子が見られる。 近くを通ると休み時間は子どもたちの元気な声が聞こえてきて安心する。	

学校の特色を生かした領域　＜短期的な経営目標＞

	4　保護者・地域との連携		5　特色ある教育活動			
自己評価	(1)　具体的な取組	評価	(1)　具体的な取組	評価		
	①授業参観やスポーツフェスティバル・学習発表会を通して教育活動を公開する。	A	①特別支援学校との交流，副籍交流の活動を適切に行う。	A		
	②学校ホームページの更新頻度を高め，児童の様子を保護者・地域と情報共有する。	A	②校内研究で国語科を中心とした指導の工夫について，全教員で取り組み，授業改善を図る。	A		
	(2)　成果（数値目標に対して）	評価	(2)　成果（数値目標に対して）	評価		
	①学校は授業などの公開を積極的に行っているという肯定的な回答 90%を目指す。	A	①様々な感染症予防と防止対策を講じて，年１回以上直接または間接交流を行う。	A		
	②情報発信をしていると肯定的な回答 90%を目指す。	A	②校内研究で研究授業を行い，授業力を高め，子どもも教員も学習・指導の充実感を味わう。	A		
学校関係者評価	様々な教育活動の中で，「いつもの」，「普段通りの」充実した学びの様子が見られた。 各種行事に取り組む児童の姿を見て，安心と感動を覚えた。 公開授業の数が増えていてよかった。		特別支援学級での丁寧な指導や積極的な児童の姿がたくさん見られた。 特別支援学級との交流は社会を知るという意味もあり，とても重要だと思う。今後も継続してほしい。			

人材育成・組織運営	
自己評価	○校内研究会や各種研修会を通して，教員一人一人の授業力向上を図るとともに学年における指導の統一を図ってきた。 ○教科担任制（交換授業）を取り入れ，学年運営を円滑に進めるとともに，全体指導の学習・生活指導力を高めた。 ○校内委員会の充実を図り，いじめにつながる事案の早期解決を図る。また，児童の特性を見極めた通級指導への適切な接続をすすめた。
学校関係者評価	八雲台小学校にかかわった数年間を振り返り，常に課題に対して教職員の皆さんが真摯に取り組んでいる様子が見られた。保護者や地域との継続的な関わり合いも含め，コミュニティスクールとしての実践にさらに生かされていくことを期待する。 教職員の皆さんがしっかりと授業力の向上のために取り組んでいると感じた。

中期的な経営目標の達成状況

1　心の教育の充実に向け，感情や行動を調整する力を付け，児童相互の良好な人間関係を確立させてきた。一層思いやり等の心の育成が課題である。

2　小中連携や幼保小連携交流等に取り組み，心の育成と安定した学びの接続・連続を実践してきた。それぞれの学校や園との情報共有を大切にしている。

3　基礎的な知識・技能の定着を基盤として，国語科を中心として校内研究を通して教員の授業力向上を図ってきた。授業の質は高まってきている。

4　体力向上・健康教育の充実し，今年度は感染症の大きな広がり等はなかった。

5　学校・保護者・地域で共に子どもを育てる意識を高めるよう努力してきた。次年度コミュニティスクールとなり，一層の広がりを目指す。

人・組織　児童の実態に合わせた授業ができる教員を育成する。通級指導が在籍学級の指導に生かされるよう教員間の連携を密にしてきた。

次年度の重点課題

○一人一人の子どもが，多様な他者を理解しながら，主体的に学び，学ぶ喜びを味わうことのできる授業を提供する。

○一人一人の子どもが，だれ一人取り残されず，児童の可能性を引き出す教育に向け，教員の授業改善を推進する。